参考となる成果整理表

リンゴ褐斑病は開花期にも感染リスクがある

福島県農業総合センター　果樹研究所　病害虫科

1　部門名　果樹－リンゴ－病害虫防除

2　担当者名　小松健太郎、藤田剛輝、日下部翔平

3　要旨

リンゴ褐斑病の病原菌は罹病落葉で越冬し、形成される子のう胞子が一次伝染源となる。本病の一次感染は、従来は落花期以降と考えられていたが、暴露試験及び子のう胞子飛散消長調査の結果、開花期に感染する年もあることが確認された。

（1）2024 年 4 月 15 日～25 日に無防除樹の株元にポット樹（「ふじ」、5 年生）を設置し、6 月 24 日に発病状況を調査した結果、本病の発病が確認された（データ省略）。

（2）2024 年に感染要因となる子のう胞子の飛散量が確認されたのは 4 月 5 半旬で、開花期頃に感染したと考えられた（図 1）。2019 年の子のう胞子飛散調査においても、開花期に感染要因となる飛散量が確認された（図 2）。

（3）岩手県においても、一次感染が開花期頃に確認されている（猫塚ら、2023）。

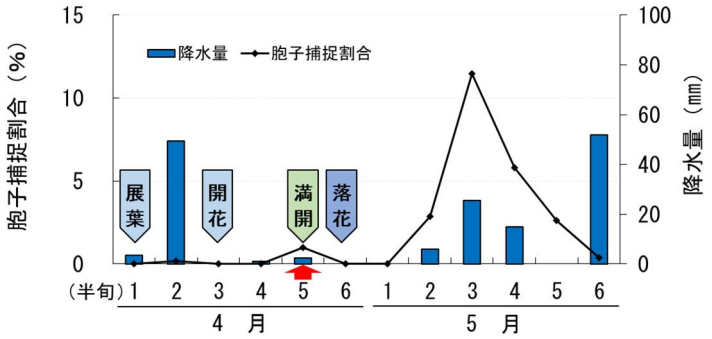

図 1　福島市におけるリンゴ褐斑病子のう胞子の飛散消長（2024 年）

↑：感染要因となる飛散量が確認された時期

胞子捕捉割合：4～6 月までに捕捉された胞子の総数に対する捕捉数の割合

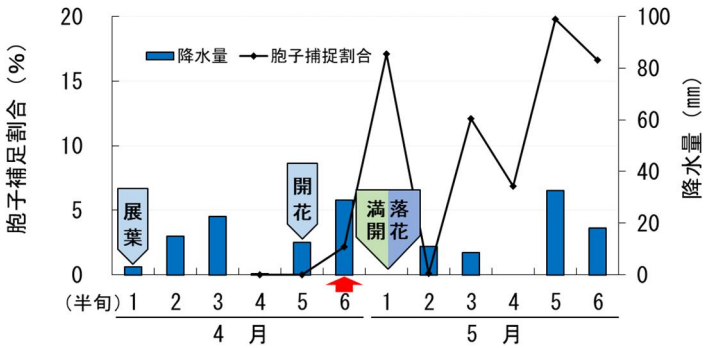

図 2　福島市におけるリンゴ褐斑病子のう胞子の飛散消長（2019 年）

↑：感染要因となる飛散量が確認された時期

胞子捕捉割合：4～6 月までに捕捉された胞子の総数に対する捕捉数の割合

4　成果を得た課題名

（1）研究期間　令和 3～7 年度

（2）研究課題名　果樹病害虫の防除法改善

5　主な参考文献・資料

（1）猫塚ら，リンゴ褐斑病の一次感染の早期化が秋期の広域的な発生に及ぼす影響，北日本病虫研報，74，p.128，2023.